

環境モデル都市提案書（様式1）

タイトル	持続可能な「環境都市うつのみや」に向けたネットワーク型コンパクトシティの形成	
提案団体	栃木県 宇都宮市	人口： 507,897人
担当者名及び連絡先	宇都宮市 環境部 環境政策課 地球温暖化対策担当：篠崎 善久 TEL：028（632）2403／fax：028（632）3316/Eメール：u0715@city.utsunomiya.tochigi.jp	

1 全体構想

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

(1) 日本で有数の「自動車依存都市」から「ひとや環境にやさしい都市」への転換が急務

- ・ 宇都宮市は、3つの環状道路と12の放射道路による道路ネットワークが整備され、また、市域全体が平坦な地形のため、開発が全市的に外側に広がり、薄く広い市街地が形成された。
- ・ こうした都市構造に加え、本市では路面電車などが発達せず、市民の生活の足はマイカー（自家用車）が中心となり、その結果、本市は一人当たりのガソリン消費量が日本一多いなど、日本でも有数の「自動車依存都市」となった。
- ・ 地球規模の環境問題や超高齢化社会などに対応するため、現在、本市は全国のどこよりも、「自動車依存」から脱却した「ひとや環境にやさしい都市」への転換に努めている。

(2) 持続可能な環境都市に向けた「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成

- ・ 上記(1)のような本市の都市の成り立ちを踏まえると、地球規模の環境問題や超高齢化、さらには中心市街地の活力低下、社会資本の老朽化などの問題に的確に対応するためには、次のような「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」の形成が最も適切と考えられ、全国の都市の中でも、最もコンパクトシティの形成が必要な都市とも言える。

① 土地利用の適正化

既存の生産基盤や都市基盤の有効活用を基本として、市街地の無秩序な拡大を抑制し、都市的機能と自然環境が調和する土地利用を進める。

② 都市機能の拠点化

中心市街地の活性化や全市的なバランスに配慮しつつ、既に形成されている地域拠点、生活拠点または生活圏など、既存の拠点や核などを有効に活用しながら、それぞれの拠点にふさわしい性格や、機能、広がりなどを踏まえた「拠点化」の促進を図る。

③ 拠点間の「ネットワーク化（連携）」

上記①、②を踏まえ、都市のコンパクト化（集約化）を図るとともに、拠点間における機能連携・補完、他圏域との広域的連携のための軸を形成・強化するなど、「ネットワーク化」（連携）の促進を図る。

(3) 「ネットワーク型コンパクトシティ」の特徴

- ・ コンパクトシティには、拠点を一箇所に集約する「一極集中型」と多極分散する「クラスター型」などがあるとされるが、本市の「ネットワーク型コンパクトシティ」は「クラスター型」に近いものである。
- ・ しかし、「クラスター型」が各拠点に生活・産業などの全ての機能をフルセットで集約するのに対し、「ネットワーク型コンパクトシティ」では、生活や商業などの機能が集約する「地域拠点」や「生活拠点」の他に、「産業拠点」、「観光拠点」など様々な特性や機能を集約した拠点を存在させるとともに、恵まれた道路ネットワークを活用し、それらの各拠点を公共交通などで結節するネットワーク化に最大の特徴がある。

(4) 環境都市に向けた本市の取組の特徴と先進性

① 徹底した交通改革

- ・平成15年度の我が国における二酸化炭素の排出量のうち約24%を運輸部門が占めており、また、運輸部門からの排出量のうち約半分が自家用乗用車（マイカー）からの排出となっている。
- ・「自動車依存都市」の本市は、恵まれた道路ネットワークを活用し、「ネットワーク型コンパクトシティ」を形成するための骨格となる、総合的な交通体系を確立するとともに、様々な施策を総合的に展開し、マイカーから公共交通への利用転換を図るための徹底した交通改革に取り組んでいる。

② 全国を先導する「もったいない運動」

本市では、「もったいない」という日本特有の言葉を改めて再認識し、「人やものを大切にすること」をさまざまな活動・取組の基本として、「もったいない」という精神が、市民の日常生活や事業活動の中で行動に結び付くよう、「もったいない運動」を展開しており、平成19年度と平成20年度には、「もったいない全国大会」を開催し、全国の「もったいない」を進める自治体や団体のネットワーク化を進めている。

1-2 現状分析

1-2-① 温室効果ガスの排出実態等

【温室効果ガス総排出量の推移】

本市の温室効果ガス総排出量は、1990年度で約3,488千t-CO₂（二酸化炭素換算排出量、電力転換後の消費ベース）、2003年度は約4,141千t-CO₂と推計され、13年間で約19%増加している。

【二酸化炭素排出量の推移】

温室効果ガス排出量の95%を占める二酸化炭素排出量は、1990年度で約3,175千t-CO₂、2003年度は約3,952千t-CO₂と推計され、13年間で約25%増加している。

【部門別二酸化炭素排出量の推移】

部門別の二酸化炭素排出量の推移については、廃棄物部門を除く部門（産業部門、運輸部門、民生業務部門、民生家庭部門）で1990年度と比較して2003年度における排出量が増加している。特に、民生業務部門は、2003年度の値が基準年度に比べ約40%増と、増加が目立っている。

【本市における温暖化対策の取組状況】

本市においては、平成14年3月に策定した「宇都宮市地域新エネルギービジョン」に基づき、市施設への新エネルギー設備の率先導入を図り、地球温暖化対策に取り組んできたところである。

また、市民・事業者・市が一体となった市域全体での温室効果ガス削減の具体的取組を推進するため、平成19年2月に「宇都宮市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、本年度より計画の進行管理に取り組むとともに、省エネ機器や新エネ機器の普及促進など、各施策の実施効果について検証を行っている。それに加え、本市では「もったいない」という言葉をキーワードとして、3R（リデュース、リユース、リサイクル）や地球温暖化防止対策を推進しており、平成19年度には「もったいない全国大会」を開催し、日本全国に「もったいない」の精神の大切さについて発信した。

1-2-②	計画の名称及び策定期	評価
関係する既存の行政計画の評価	環境基本計画 (改訂版) (平成20年4月)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本条例の基本理念等の具体化に向け、環境の保全及び創造に関する長期的な目標と施策の方向等を示し、本市における環境施策を総合的・計画的に推進するための計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている
	地球温暖化対策地域推進計画 (平成19年2月)	<ul style="list-style-type: none"> ・本市における地球温暖化対策に関する基本方針を定め、市民・事業者・行政が一体となった市域全体での温室効果ガス削減の具体的取組を推進するための計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている
	宇都宮市役所“ストップ・ザ・温暖化”プラン (平成19年2月)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく市の事務事業における温室効果ガス排出抑制のための実行計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている
	地域新エネルギービジョン (平成14年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・本市における新エネルギー導入の基本方針や導入事業の方向等を明らかにする計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている
	地球温暖化防止のための森林吸収源対策プラン (平成18年8月)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止のために、森林等の吸収源にかかる対策を総合的に推進するための計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている
	生活交通確保プラン (平成18年4月)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の利便性を高め、環境にもやさしい生活交通を確保するため、路線バスの維持存続方策や地域内交通の確保方策について明らかにした計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている
	新交通システム導入基本計画策定調査 (平成15年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての市民の安全で快適な都市内移動手段を確保するとともに、車利用から公共交通利用への転換を促進し、交通渋滞の緩和や環境負荷の軽減を図るために導入する新交通システムの基本的な考え方を明らかにした計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている
	道路見える化計画 (平成20年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・本市における道路の交通渋滞箇所と交通事故多発箇所について、必要な対策を講じ、円滑な交通環境を整備するための計画 ・温室効果ガス排出を削減する方向となっている

1-3削減目標等

1-3-① 削減目標	<p>【本市が描く脱温暖化社会としての将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LRTやバス、鉄道などの公共交通ネットワークの充実や、自転車の利活用環境や渋滞箇所の整備により、誰もがマイカーに頼らずに快適かつ円滑に移動できます。 ・人・もの・地球を大切にすることである「もったいない」の精神を再認識し、全国の「もったいない」を推進する仲間と協働で、3Rや地球温暖化対策などを推進し、環境にやさしいライフスタイル、ビジネススタイルを確立しています。 ・これらにより、人と自然が共生し、環境への負荷の少ない持続可能な「みんなで築き 未来へつなげよう 環境都市 うつのみや」を実現しています。
---------------	---

【本市における長期的な温室効果ガス排出量削減目標】

本市は、平成19年2月に策定した「宇都宮市地球温暖化対策地域推進計画」により、2012年度における温室効果ガス排出量を、2003年度比で市民1人又は1事業者当たりでそれぞれ17%削減することを目指している。

長期的な目標としては、2003年度時点で1990年度と比較して排出量の増加が顕著な、民生家庭部門・民生業務部門・運輸部門から排出される二酸化炭素排出量を、2050年度までに50%削減（2003年度比）することを目指す。

【運輸部門における削減取組の必要性】

本市は日本で有数の「自動車依存都市」であることから、「環境にやさしい都市」への転換が急務となっている。そのため、長期的なビジョンに基づき生活交通の確保、既存鉄道の利便性の向上、東西基幹公共交通（LRT）の導入など、公共交通ネットワークの整備を行い、「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を図ることにより、運輸部門から排出される二酸化炭素排出量の削減を目指す。

【各部門における二酸化炭素排出量削減目標】

(単位 t-CO2)

	民生家庭部門	民生業務部門	運輸部門	2003年度比の削減率
2003年度	571,227	965,814	947,524	
2012年度	474,118	801,626	786,445	17%
2030年度	399,859	676,070	663,267	30%
2050年度	285,614	482,907	473,762	50%

1-3-②
削減目標の達成についての考え方

いつまでも輝き続ける「夢ある都市」、持続可能な「環境都市」を目指すため、「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」の形成とともに、「第5次宇都宮市総合計画」や「宇都宮市地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、市民・事業者・行政など、本市のすべての構成主体がパートナーシップの下、中長期的な視点から総合的、計画的に削減目標の達成を図る。

取組み方針

【徹底した交通改革】

「自動車依存都市」から脱却するため、恵まれた道路ネットワークを活用し、「ネットワーク型コンパクトシティ」を形成するための骨格となる、総合的な交通体系を確立し、マイカーから公共交通への利用転換を図る。

- ・東西基幹公共交通（LRT）の導入
- ・生活交通の確保
- ・バス利用の促進 など

削減の程度及びその見込みの根拠

2050年度における温室効果ガス排出量50%の削減を達成するためには、運輸部門での改革が必要であるので、公共交通ネットワークの構築、道路渋滞の解消、自転車利活用の促進などを進め、必要以上の自動車利用を抑制する。

	<p>【“もったいない”で築く・伝える 活動イノベーション】</p> <p>市民一人ひとりの環境に配慮した行動の実践と次代の宇都宮を築き、将来を担うことのできる世界的で幅広い視野を持った人材の育成により、環境調和型の「持続可能な都市」の形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策の推進 ・3Rの推進 ・環境教育の推進 	<p>2050年度における温室効果ガス排出量50%の削減を達成するため、市民1人ひとりの省エネルギー行動の徹底が不可欠であるため、本市では「もったいない」をキーワードに地球温暖化対策や3Rに取り組む「もったいない運動」に全市的に取り組むとともに、みやエコファミリー認定制度や学校版環境ISO認定制度などの環境学習の取組を充実させることにより、市民の地球温暖化防止に関する意識の向上及び省エネルギー行動の徹底を図っていく。</p>
	<p>【低炭素社会に向けたエネルギー施策の推進】</p> <p>地域エネルギーを有効に活用した新エネルギーの導入や、日常生活や事業活動における省エネルギー・省資源に心がけた環境にやさしいライフスタイル、環境に配慮したビジネススタイルが実践されるまちづくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新エネルギーの導入推進 ・省エネルギー、省資源型ライフスタイルの促進 	<p>2050年度における温室効果ガス排出量50%の削減を達成するため、新エネルギー機器や省エネルギー機器の普及促進による再生可能エネルギー活用の拡大や、エネルギー効率の上昇が不可欠であるため、太陽光発電導入に係る各施策の拡充や、バイオマスタウンの構築、公共施設における省エネ・新エネ設備の率先導入により、新エネルギー機器や省エネルギー機器の普及促進を図っていく。</p>
<p>1-3-③ フォローアップの方法</p>	<p>計画に計上している各取組については、毎年度実施状況を把握し、市民に公表するとともに、宇都宮市環境審議会などから意見を聴取する。</p> <p>温室効果ガスの排出状況については、算定に相当な時間を要することから、数年ごとなど、必要に応じ把握し、市民に公表する。</p> <p>また、計画の見直しについては、今後の温室効果ガスの排出状況の推移、地球温暖化に関する各種施策の実施状況、国内外の動向等を踏まえ、適宜、実施する。</p>	
<p>1-4 地域の活力の創出等</p>		
<p>本市においては、取組の実施により、次のような都市の実現を想定している。</p> <p>(1) 輝く希望と笑顔にあふれた「みんなが幸せに暮らせるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が、日常生活の中で環境に配慮した行動を実践し、貴重な自然環境や快適な生活環境が守り伝えられています。 ・誰もが自由に交通手段を選び、行きたいところへ快適に移動しています。 ・高齢者が身近な地域の中で、健康で生きがいをもち、生き生きと暮らしています。 <p>(2) 独自の存在感と風格を備えた「みんなに選ばれるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市としての存在感が増し、本市のイメージが高まっています。 ・都市拠点や地域拠点を中心に、人・もの・情報が活発に交流し、本市の魅力と活力が高まっています。 <p>(3) みんなでまちをつくる活力にあふれた「持続的に発展できるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活拠点において、地域のコミュニティが十分に機能し、地域住民が一体となって地域の課題を主体的に解決していける、市民自治が根ざした地域社会が形成されています。 		

2 取組内容		
2-1 徹底した交通改革に関する事項		
2-1-① 取組方針		
<p>宇都宮市は「円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する」ため、公共交通で円滑な移動ができるようにするための「公共交通ネットワークの充実」、円滑な道路交通を確保するための「道路ネットワークの充実」、環境負荷の低減や、あらゆる人々の利用に対応するための「ひとや環境にやさしい交通環境の創出」を目指す。</p>		
2-1-② 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減見込み・フォローアップの方法
<p>(a) 東西基幹公共交通（LRT）の導入</p> <p>宇都宮市において、交通渋滞の最も著しい、市中心部（都市拠点）の桜通り十文字から市東部の宇都宮テクノポリスセンター地区（地域拠点）までの15Kmの区間に、新たに軌道や駅を整備し、LRTを導入する。</p> <p>都市拠点と地域拠点を公共交通で結節する「ネットワーク型コンパクトシティ」形成の基幹的な整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施計画の策定 ・会社設立 ・施設整備 	<p>宇都宮市、交通事業者</p> <p>平成24年度頃の事業着手を予定</p>	<p>自動車を使わない取組による削減見込み</p> <p>253kg-CO2/年</p> <p>【市第5次総合計画基本計画の目標値】</p> <p>自動車や公共交通で市内を移動する際に、便利で快適であると感じている市民の割合</p> <p>平成19年度：30.6%</p> <p>↓</p> <p>平成24年度：43%</p> <p>フォローアップは、環境審議会等からの意見聴取、行政評価の公表などにより、適宜実施</p>
<p>(b) 生活交通の確保</p> <p>通勤通学や通院、買い物など生活の足として、バス路線の維持存続を図るとともに、日常生活の身近な地域（ネットワーク型コンパクトシティで言う「地域拠点」や「生活拠点」）内での移動を容易にするための地域内公共交通の運行を実施・推進する。</p> <p>◆バス路線の維持存続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤字バス路線に対する生活バス路線維持費の助成（全市） <p>◆地域内公共交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内公共交通（コミュニティバス）の運行（路線バスの少ない上河内地区） ・地域内公共交通（ジャンボタクシー）の運行への助成（地域が自主的に取り組んでいる清原地区） ・全市的な地域内交通の実施促進（全市） 	<p>宇都宮市 現在実施中</p> <p>宇都宮市 現在実施中</p> <p>地域団体 現在実施中</p> <p>宇都宮市 現在普及啓発活動を実施中</p>	
<p>(c) 既存鉄道の利便性向上の促進</p> <p>宇都宮市内の既存鉄道の駅機能を強化するとともに、新たな駅の設置や増便、アクセス道路整備などにより、公共交通としての鉄道利用を促進する。</p> <p>◆JR雀宮駅の駅機能強化（平成22年度までに完了）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西口入口しかないJR雀宮駅について、東口入口・駅の橋上化・東口駅前広場・東西自由通路・アクセス道路を整備する。 <p>◆JR岡本駅の駅機能強化（平成23年度より着手予定）</p>	<p>宇都宮市・鉄道事業者 現在実施中</p> <p>宇都宮市・</p>	

<p>・東口入口しかないJR岡本駅について、西口入口・駅の橋上化・西口駅前広場・東西自由通路を整備するとともに、東口駅前広場を再整備する。</p> <p>◆既存鉄道（JR宇都宮線，日光線，東武線）における新しい駅施設，鉄道利便性，アクセス性などの向上の研究・検討</p>	<p>鉄道事業者 平成23年度に整備着手予定</p> <p>宇都宮市・鉄道事業者 現在検討中</p>	
<p>(d) 交通渋滞緩和策の推進</p> <p>宇都宮市は，全国で唯一，国（国土交通省宇都宮国道事務所），栃木県，そして市の3者が「道路見える化計画」を策定し，市内全域の全ての道路（国道・県道・市道）を対象に重点箇所を選定して，一体的に渋滞緩和を実施している。</p> <p>◆「渋滞見える化プラン」（平成17年に国・県が策定）による対策箇所整備</p> <p>①朝夕の渋滞対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新4号国道（瑞穂野団地入口交差点付近）※整備完了 ・新4号国道（問屋町交差点付近） ・国道408号（宇都宮市～真岡市） ・主要地方道宇都宮鹿沼線（宇都宮市～鹿沼市） ・主要地方道宇都宮向田線（宇都宮市板戸付近） <p>②休日の渋滞対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道4号（西原交差点，川田入口交差点付近）※整備完了 ・国道119号（関堀町交差点付近）※整備完了 ・国道119号（下川俣交差点付近） <p>◆「宇都宮市道路見える化計画」（平成19年に市が策定）による対策箇所整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陽南通り ※整備完了 ・平成通り ・市道544号線（御幸ヶ原町） ・宇都宮水戸線 ・市道5580号線（インターパーク地区周辺） ・市道5340号線（みずほの通り（清原地区）） 	<p>国，栃木県 現在実施中</p> <p>宇都宮市 現在実施中</p>	
<p>(e) 自転車利用・活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車道の整備（都心部7路線，郊外部2路線） ・駅前駐輪場の新規整備（JR宇都宮駅西口，JR雀宮駅東口） ・郊外型駐輪スポットの新規整備（瑞穂野地区） ・都市型レンタサイクルの実施（都心部） 	<p>宇都宮市 現在実施中</p>	
<p>(f) 公共交通利用促進事業（モビリティ・マネジメント）の展開</p> <p>バス事業者などと様々な啓発活動を行うとともに，バス停の整備などのバス利用環境を整備し，マイカー通勤者の利用転換を図る。</p> <p>◆市内全域（全バス路線）でのモビリティ・マネジメントの展開</p>	<p>宇都宮市・バス事業者 ・地域団体 現在実施中</p>	<p>【市第5次総合計画基本計画の目標値】 1日当たりの路線バスの利用者数</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・マイカー通勤者へのアンケート調査の実施，バス情報グッズ等の提供による公共交通への利用転換の誘導 ◆バス利用環境整備の促進 ・バス会社3社の共通系統番号の導入， ・バス停の上屋・ベンチ・駐輪場の整備 		<p>平成17年度：44,602人 ↓ 平成24年度：45,000人</p>
<p>(g) 公共車両優先システム（PTPS）の整備 道路上の信号機と連動し，バスの定時制，速達性を確保するための公共車両優先システム対応バス車載器の整備を支援し，バス本来の機能と役割を回復させ，利便性を向上させることで，マイカー通勤からバス利用への転換を促す。 ※ 白沢街道において実施中</p>	<p>バス事業者 現在実施中</p>	
<p>2-1-③課題</p>		

2-2. 『“もったいない” で築く・伝える 活動イノベーション』

2-2-①. 取組方針

「脱温暖化・循環型の環境にやさしい社会を形成する」ため、「もったいない運動」を軸とした、温室効果ガスの排出を抑制するための「地球温暖化対策の推進」、限りある資源の有効活用を図るための「3Rの推進」、市民一人ひとりが主体的に学び、自ら環境に配慮した行動に取り組んでいくための「環境教育・学習」の充実を図り、人材の育成・活用を促進する。

2-2-②. 5年以内に具体化する予定の取組に関する事項

取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
<p>(a) 地球温暖化対策の推進</p> <p>◆市民の省エネルギー・省資源型行動の促進</p> <p>地球温暖化対策や3Rの推進、おもてなしの心の醸成を図る「もったいない運動」に市を挙げて取り組んでおり、全国大会などを通し、市民の活動イノベーションを更に進めるとともに、全国の各種団体間のネットワークを構築し、宇都宮から全国に、世界に「人やものを大切にするところーもったいない」を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もったいない全国大会などによる普及啓発 ・自治体やNPO法人、事業者などの「もったいない」全国ネットワークの構築 	<p>宇都宮市 現在実施中</p>	<p>【市地球温暖化対策地域推進計画の主な目標値】</p> <p>「もったいない宣言」をした家庭の数 平成24年度までに15,000世帯の増加</p>
<p>(b) 3Rの推進</p> <p>◆新たな資源化事業の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「その他プラスチック製容器包装」の分別導入 ・その他プラスチック製容器包装資源化施設の建設 ・廃食用油の資源化事業 	<p>宇都宮市 現在実施中</p>	<p>【市第5次総合計画基本計画の主な目標値】</p> <p>1人1日あたりの資源物以外のごみ排出量の削減 平成18年度：1,003g ↓ 平成24年度：792g</p>
<p>(c) 環境教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭版環境ISO（みやエコファミリー）の推進 ・学校版環境ISOの推進 ・事業所版環境ISOの推進 ・学校教育をはじめとするあらゆる世代に対する環境学習センター等での環境学習の充実 	<p>宇都宮市 現在実施中</p>	<p>【市地球温暖化対策地域推進計画の主な目標値】</p> <p>家庭版環境ISO（みやエコファミリー）の認定家庭数 平成24年度までに2,000世帯の増加</p>

2-2-③課題

2-3. 『低炭素社会に向けたエネルギー施策の推進』		
2-3-①取組方針		
<p>本市の自然的地域特性から循環型エネルギーとして有効な太陽光発電システムの積極的な導入推進や既に導入しているESCO事業の拡充、小水力発電の導入など、環境にやさしい新エネルギー・省エネルギーに係る各種施策の確実な推進を図る。</p> <p>また、未導入の新エネルギーについても先進的な施策等について研究を進め、積極的導入を図る。</p>		
2-3-②5年以内に具体化する予定の取組に関する事項		
取組の内容・場所	主体・時期	削減の見込み・フォローアップの方法
(a) 新エネルギーの導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電システムの導入に係る各種施策の拡充 ・水道送水管における小水力発電等の拡充 ・公共施設における新エネルギーの推進 ・バイオマスタウンの構築 ・新エネルギー施策の研究・導入 	宇都宮市 実施中	【市地球温暖化対策地域推進計画の主な目標値】 住宅用太陽光発電システム設置家庭数 平成24年度までに3,000世帯の増加
(b) 省エネルギー、省資源型ライフスタイル・ビジネススタイルの促進 <ul style="list-style-type: none"> ◆ESCO事業の積極的な導入 <ul style="list-style-type: none"> ・市本庁舎に続く市有施設等への積極的な導入促進 ・実行計画の策定 ◆公共施設等における省エネルギーの推進 ◆市公用車への更なる低公害車やBDF燃料の導入 ◆エコドライブ活動の推進 ◆省エネルギー機器の普及促進 	宇都宮市 実施中	【宇都宮市役所“ストップ・ザ・温暖化”プランの主な目標値】 市の施設から排出される温室効果ガスの削減を目指します。 平成17年度 112,818t-CO2 ↓ 平成24年度 94,055t-CO2
2-3-③課題		

3. 平成20年度中に行う事業の内容	
取組の内容	主体・時期
東西基幹公共交通（LRT）の導入 ・LRT導入可能性調査の実施	宇都宮市，栃木県，バス事業者 4月～3月
生活交通の確保 ◆バス路線の維持存続 ・赤字バス路線に対する生活バス路線維持費の助成（全市） ◆地域内公共交通の確保 ・地域内公共交通の運行 ・全市的な地域内交通の実施促進（全市）	宇都宮市，地域団体 4月～3月
交通渋滞緩和策の推進 ◆「宇都宮市道路見える化計画」（平成19年に市策定）による交通渋滞対策箇所の整備 ・市道5340号線（みずほの通り（清原地区））ほか	宇都宮市 4月～3月
既存鉄道の利便性向上の促進 ◆JR雀宮駅の駅機能強化（平成22年度までに完了） ・西口入口しかないJR雀宮駅について，東口入口・駅の橋上化・東口駅前広場・東西自由通路・アクセス道路を整備する。	宇都宮市，鉄道事業者 4月～3月
公共交通利用促進事業（モビリティ・マネジメント）の展開 ◆市内全域（全バス路線）でのモビリティ・マネジメントの展開 ・マイカー通勤者へのアンケート調査の実施，バス情報グッズ等の提供による公共交通への利用転換の誘導 ◆バス利用環境整備の促進 ・バス会社3社の共通系統番号の導入 ・バス停の上屋・ベンチ・駐輪場の整備	宇都宮市 4月～3月
自転車利用・活用の推進 ・自転車道の整備（都心部3路線） ・駅前駐輪場の新規整備（JR宇都宮駅西口，JR雀宮駅東口） ・郊外型駐輪スポットの新規整備（瑞穂野地区） ・都市型レンタサイクルの実施（都心部）	宇都宮市 4月～3月
「もったいないうつのみや」の推進 ・第2回もったいない全国大会の開催	宇都宮市 6月2日，3日
新たな資源化事業の導入 ・その他プラスチック製容器包装資源化施設整備 ・廃食用油の資源化モデル事業	宇都宮市 4月～3月
バイオマスタウンの構築 ・バイオマスタウン構想の策定	宇都宮市 4月～2月
4. 取組体制等	
行政機関内の連携体制	「地球温暖化対策推進委員会」などの既存の組織により，事業の総合調整を行うとともに進捗状況などの点検・検証を行う。
地域住民等との連携体制	市民・事業者・行政のネットワークによる地球温暖化対策を推進するための組織の形成を図る。
大学，地元企業等の知的資源の活用	国内最大規模の内陸型工業団地内の各企業やエネルギー供給事業者，大学等の研究機関との連携を図る。

(宇都宮市)環境モデル都市提案書(様式2)

1-1 環境モデル都市としての位置づけ

日本有数の「自動車依存都市」から「ひとや環境にやさしい都市」への転換

都市環状道路の完備等から都市開発の面が広がり、マイカー中心の生活となった結果、一人当たりのガソリン消費量日本一の日本有数の自動車依存都市となっている。地球規模の環境問題や超高齢化社会等に対応するため、自動車依存社会から脱却した、ひとや環境にやさしい都市への転換が急務となっている。

持続可能な環境都市に向けた「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成

土地利用の適正化、都市機能の拠点化、拠点間のネットワーク化を図り、「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約都市）」の形成を図る。

1-2. 現状分析

【温室効果ガス総排出量の推移】

1990年度で約3,488千t-CO₂（二酸化炭素換算排出量、電力転換後の消費[※]-入）、2003年度は約4,141千t-CO₂と推計され、13年間で約19%増加。

【二酸化炭素排出量の推移】

1990年度で約3,175千t-CO₂、2003年度は約3,952千t-CO₂と推計され、13年間で約25%増加。

【部門別二酸化炭素排出量の推移】

産業部門、運輸部門、民生業務部門、民生家庭部門（廃棄物部門除）で1990年度と比較して2003年度における排出量が増加。特に、民生業務部門は基準年度に比べ約40%増、民生家庭部門は約26%増、運輸部門は約11%と増加が目立つ。

【本市における温暖化対策の取組状況】

市地球温暖化対策地域推進計画に基づき、市民・事業者・市が一体となった市域全体での対策に取り組んできたが、特に平成17年度からは「もったいない」という言葉をキーワードに3Rや地球温暖化防止対策を推進しており、平成19年度には「もったいない全国大会」を開催し、全国に「もったいない」の精神の大切さを発信した。

1-4. 地域の活力の創出等

取組の実現により、温室効果ガスの大幅な削減を図るとともに、次のような、都市の長期的な活力の創出を想定している。

輝く希望と笑顔あふれた「みんなが幸せに暮らせるまち」

市民が日常生活の中で環境に配慮した行動を実践し、自然・生活環境が守り伝えられている。誰もが自由に交通手段を選び、行きたいところへ快適に移動している。

独自の存在感と風格を備えた「みんなに選ばれるまち」

都市拠点や地域拠点を中心に、人・もの・情報が活発に交流し、魅力と活力が高まっている。

みんなでまちをつくる活力にあふれた「持続的に発展できるまち」

地域住民が一体となって地域の課題を主体的に解決していける、市民自治が根ざした地域社会の形成。

1-3. 削減目標等

【本市が描く脱温暖化社会としての将来像】

・LRTやバス、鉄道などの公共交通ネットワークの充実や、自転車の利活用環境や渋滞箇所の整備により、誰もがマイカーに頼らずに快適かつ円滑に移動できます。

・人・もの・地球を大切にすることである「もったいない」の精神を再認識し、全国の「もったいない」を推進する仲間と協働で、3Rや地球温暖化対策などを推進し、環境にやさしいライフスタイル、ビジネススタイルを確立しています。

・これらにより、人と自然が共生し、環境への負荷の少ない持続可能な「みんなで築き 未来へつなげよう 環境都市 うつのみや」を実現しています。

【本市における長期的な温室効果ガス排出量削減目標】

平成19年2月に策定した「市地球温暖化対策地域推進計画」により、2012年度における温室効果ガス排出量を2003年度比で市民1人又は1事業者当たりでそれぞれ17%削減することを目指している。

長期的な目標としては、2003年度時点で1990年度と比較して排出量の増加が顕著な、民生家庭部門・民生業務部門・運輸部門から排出される二酸化炭素排出量を2050年度までに50%削減（2003年度比）することを目指す。

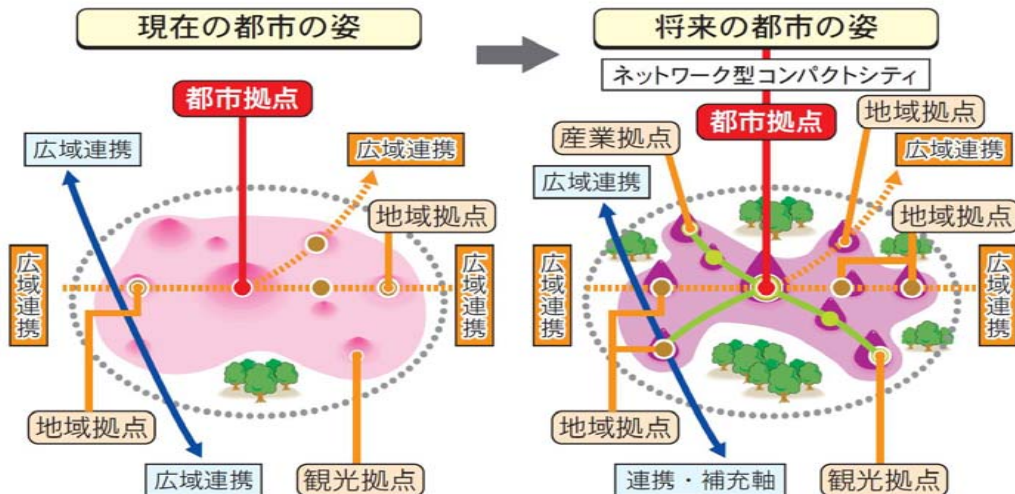
【各部門における二酸化炭素排出量削減目標】

(単位 t-CO₂)

	民生家庭部門	民生業務部門	運輸部門	2003年度比の削減率
2003年度	571,227	965,814	947,524	
2012年度	474,118	801,626	786,445	17%
2030年度	399,859	676,070	663,267	30%
2050年度	285,614	482,907	473,762	50%

環境モデル都市のイメージ

宇都宮市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」



- ・平坦な地形にうすく広がった市街地
- ・恵まれた道路ネットワーク

⇒ 日本有数の「自動車依存都市」

- 土地利用の適正化・都市機能の拠点化
- 拠点間のネットワーク化
- 徹底した交通改革
 - ・公共交通ネットワークの構築
LRTの導入, 生活交通の確保など,
 - ・自転車の利用・活用の推進
 - ・道路交通渋滞の緩和

ひとや環境にやさしい都市
「ネットワーク型コンパクトシティ」へ

都市空間の形成に合わせて, 市民の環境活動も促進



もったいないうつのみや運動

「もったいない」の精神に基づき, 市民生活での取組を展開

- ・3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進
- ・家庭版ISO, 学校版ISO, 家庭の「もったいない宣言」の推進
- ・もったいない全国大会の開催
(平成19, 20年度)
⇒ 全国の自治体, 団体とネットワーク化を先導

宇都宮市が目指す公共交通ネットワークのイメージ

